

平成25年3月

プラットホーム工法での床部合板などのカビ発生について

押出発泡ポリスチレン工業会



(監修) 近畿大学 建築学部長
教授 岩前 篤

地上階の床から先に造作し、壁、屋根を後から作るプラットホーム工法は、2×4住宅を中心に普及してきている。床先行であることから、床の上で作業ができるため安全で合理的な工法であるが、施工途中や外皮施工前の降雨により1階の床合板にカビが発生することがあるという。

当工業会で実施した模型実験では、床断熱材を施工後（床合板を施工する前）に雨が降ってきて水が溜まった状態のまま床合板を施工して放置すると、断熱材の透湿性が高い繊維系断熱材でも透湿性の低い押出法ポリスチレンフォームでも大引きにカビの発生が認められた。

このようにプラットホーム工法を実施する場合は、“雨が降れば養生して雨に濡れないようにする。雨水が溜まらないようにする”という施工上の基本を徹底し次にあげる項目を遵守する必要がある。

- ①気密層は合板及びその継目を気密テープなどで措置することで行い、断熱材／合板間に気密シートを施工するなど断熱材上面を気密層としない。
- ②パネル工法として、外皮施工までの工期を短縮する。
- ③断熱工事に拘らず、原則、作業を中止して養生シート等で雨掛かりを防ぐ。
- ④作業再開後に残った表面付着水等をよく拭き取り乾燥させる。
- ⑤ベタ基礎などで、床下に溜り水がある場合は除去する。
- ⑥外皮施工後、仕上げ工程直前にも再チェックする。

以上